

## 匿名標本データ「第Ⅰ期試行的運用」における利用状況

## 1 提供データ

平成4・9・14年就業構造基本調査

平成3・8・13年社会生活基本調査（平成13年調査の調査票Bを除く）

平成元・6・11年全国消費実態調査（購入先別、曜日別の品目分類を除く）

## 2 利用の状況

第Ⅰ期の4回の募集における申請件数は計31件で、利用者数は総計41名（うち共同利用者は10名）である。

	16年11月募集	17年4月募集	17年10月募集	18年4月募集
申請件数	6件	4件	12件	9件
(利用者数)				
申請者数	6人	4人	12人	9人
共同利用者数	1人	—	4人	5人
(調査別)				
就調	1件	2件	4件	7件
社会調	1件	—	1件	—
全消	4件	3件	8件	3件
(分析方法)				
表のみ	2件	—	3件	—
表＋多変量解析	2件	3件	5件	8件
多変量解析のみ	2件	1件	4件	1件
(大学)				
国公立大学	1件	2件	5件	6件
私立大学	5件	2件	7件	3件
(地域)				
北海道・東北	—	—	—	2件
東京	2件		3件	5件
関東(東京以外)		1件	1件	2件
北陸・東海	1件		1件	—
近畿	2件	3件	6件	—
中国・四国	—	—	—	—
九州・沖縄	1件	—	1件	—
(地域－再掲)				
関東	2件	1件	4件	7件
関東以外	4件	3件	8件	2件
(資金の出所)				
科研費	—	1件	—	1件
科研費以外	6件	3件	12件	8件

## 匿名標本データ「第Ⅱ期試行的運用」における利用状況

### 1 提供データ

平成4・9・14年就業構造基本調査

平成3・8・13年社会生活基本調査（平成13年調査の調査票Bを含む）

平成元・6・11・16年全国消費実態調査（購入先別、曜日別の品目分類を除く）

平成5住宅統計調査、平成10・15年住宅・土地統計調査（乙調査票を除く）

### 2 利用の状況

第Ⅱ期の8回の募集における申請件数は計77件で、利用者数は総計120名（うち共同利用者は43名）である。

	18年11月募集	19年4月募集	19年7月募集	19年10月募集
申請件数	20件	5件	10件	10件
(利用者数)				
申請者数	20人	5人	10人	10人
共同利用者数	8人	1人	7人	2人
(調査別)				
就調	11件	—	4件	5件
社会調	2件	2件	3件	1件
全消	8件	3件	2件	3件
住調	2件	—	1件	1件
(分析方法)				
表のみ	6件	2件	4件	3件
表+多変量解析	12件	2件	5件	7件
多変量解析のみ	2件	1件	1件	—
(大学)				
国公立大学	13件	2件	5件	6件
私立大学	7件	3件	5件	4件
(地域)				
北海道・東北	2件	—	1件	1件
東京	8件	1件	4件	3件
関東(東京以外)	2件	2件	1件	3件
北陸・東海	2件	1件	1件	—
近畿	4件	1件	3件	2件
中国・四国	—	—	—	1件
九州・沖縄	2件	—	—	—
(地域—再掲)				
関東	10件	3件	5件	6件
関東以外	10件	2件	5件	4件
(資金の出所)				
科研費	8件	2件	8件	4件
科研費以外	12件	3件	2件	6件

	20年1月募集	20年4月募集	20年7月募集
申請件数	2件	15件	15件
(利用者数)			
申請者数	2人	15人	15人
共同利用者数	2人	13人	10人
(調査別)			
就調	1件	5件	3件
社会調	1件	3件	7件
全消	—	10件	7件
住調	—	2件	1件
(分析方法)			
表のみ	—	6件	4件
表+多変量解析	2件	6件	9件
多変量解析のみ	—	3件	2件
(大学)			
国公立大学	—	7件	7件
私立大学	2件	8件	8件
(地域)			
北海道・東北	—	—	—
東京	2件	5件	6件
関東(東京以外)	—	2件	2件
北陸・東海	—	2件	3件
近畿	—	6件	3件
中国・四国	—	—	—
九州・沖縄	—	—	1件
(地域—再掲)			
関東	2件	7件	8件
関東以外	—	8件	7件
(資金の出所)			
科研費	—	6件	5件
科研費以外	2件	9件	10件

## 匿名標本データ「第Ⅰ期及び第Ⅱ期試行的運用」における 利用者アンケートの概要

匿名標本データの「第Ⅰ期」利用者に対するアンケート（計30件）及び「第Ⅱ期」の平成18年11月、19年4月、19年7月募集の3回分の利用者に対するアンケート（計34件）の主な結果は、次のとおりである。

### 1 利用者の資格・利用手続等について

- 大学院生、ポスト・ドクター、民間研究機関の研究者を共同利用者にしてほしい
- 大学の助手、公的な研究機関の研究員、短期大学の教員など申請者の範囲を広げてほしい
- 海外の研究者の利用を認めてほしい
- 6か月では時間不足で、十分な研究ができなかった
- 当初申請していない集計を行えなかったため、分析に支障が生じた
- 提供後の集計表の追加・変更を認めてほしい
- 分析内容の変更を認めてほしい
- 個人が複数の研究テーマの申請を出すことを認めてほしい
- 共同研究の場合、どのような申請が可能なのかわかりにくかった
- 申請時期を任意にしてほしい
- 試行錯誤を含む集計様式を記載するのは負担なので、省力化してほしい
- 集計様式を簡略化してほしい
- 集計様式の書き方の説明がわかりにくかった
- 集計様式の作成方法がわかりにくかった
- 集計表の変数の設定をどの程度細かくすればいいかわからなかった
- 2度目の利用のときには、説明会への出席を免除してほしい
- データの受け取りの簡素化をしてほしい

### 2 提供データの形式等について

- 地域区分がないので、地域性の分析ができなかった
- 地域をより詳細にしてほしい
- 人口の多い市、特別区については、地域区分を付与してほしい
- トップコーディングによって、所有格差や居住格差の分析で制約を受けた
- トップコードについて、該当する数値の平均値を入れてほしい
- 年齢をトップコーディングしてほしくない
- SPSSなどに対応した形式のデータで提供してほしい
- 固定長テキスト形式のデータで提供してほしい
- データが文字型であるため、形式の変換が不便であった
- 年次により符号の付け方が違って不便であった
- 変数名は日本語のローマ字綴りになっているので読みづらい
- 全国消費実態調査の場合、調査票が全部そろっていない分のデータも提供してほしい

### 3 リサンプリングと誤差の付加等の比較について

- 下記のいずれのデータを使いたいか
  - 抽出率80%のリサンプリング・データ（56）
  - 誤差の付加やスワッピングを行った全データ（4）
  - どちらでもよい（3）
- リサンプリングの率と利用の希望
  - 20%でも利用したい（32）
  - 50%なら利用したい（10）
  - 50%以下では利用しない（14）
  - 分からない（8）
- 抽出率が少ないと誤差、信頼性の確保が不安
- サンプルが多くなければできない分析もあるが、20%でも分析可能な研究課題もあると思う
- 家計調査などデータ数の少ない調査では、高いリサンプリング率（と誤差の導入）が必要かもしれない

### 4 試行的提供を知った方法について

- 学会、研究会で（12）
- 知り合いの研究者等から（31）
- センターのホームページ（19）

### 5 提供データ（全国消費実態調査については、最近4回分、それ以外の3つの調査について、最近3回分のデータ）以外の希望年次について

- 就業構造基本調査 …… 過去の年次、最新年次
- 全国消費実態調査 …… 過去の年次
- 社会生活基本調査 …… 過去の年次
- 住宅土地統計調査 …… 過去の年次

### 6 利用したい統計について

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| 国勢調査       | 所得再分配調査         |
| 事業所・企業統計調査 | 21世紀成年者縦断調査     |
| サービス業基本調査  | 全国母子世帯等調査       |
| 家計調査       | 賃金構造基本調査        |
| 労働力調査      | 毎月勤労統計調査        |
| 労働力調査特別調査  | 職業安定業務統計        |
| 個人企業経済調査   | 雇用動向調査          |
| 消費動向調査     | 高齢者就業実態調査       |
| 法人企業統計調査   | パートタイム労働者総合実態調査 |
| 法人土地基本調査   | 女性雇用管理調査        |
| 国民生活基礎調査   | 自動車輸送統計         |
| 人口動態調査     | 通信利用動向調査        |

## 7 ミクロデータ提供のあり方等について

- 多くの研究者に平等に研究の機会を与えることは非常によい
- 今後も継続的に提供されることを望む
- ミクロデータの分析が可能になることは、日本の研究発展に大きな役割を果たす
- このような提供方式が制度化されることを希望する
- 匿名化が難しい調査では、オンデマンド型のデータサービスを希望
- 民間の研究者にもミクロデータ利用の機会を広げることを希望
- 一部の学者、研究者だけでなく、多くの人に利用資格を与えてほしい
- 研究者であれば自由にアクセスできる仕組みも必要
- より低い抽出率でもよいので、簡単な手続で使用できるとよい
- 予備的な分析のための抽出率の低いサンプルデータを希望
- データの開放による調査自体の改善ができるようになる
- 利用者がいつでも申請できるようにすることや、申請から提供までの期間を短縮することを望む
- 投稿、査読、再投稿などのプロセスに配慮した形での利用環境を提供してほしい
- 他省庁所管のデータについても希望
- 利用期間を1年程度に延長してほしい
- データの種類や年次を拡充してほしい
- 地域情報の詳細化を希望
- 再申請でデータの利用期間を継続させてほしい
- 目的に応じて、秘匿処理の項目を変えてほしい
- 自分の分析結果の妥当性を評価できるよう、ミクロデータによる分析結果の蓄積を期待
- ミクロデータの優秀論文の表彰などあるとよい
- ミクロデータの使い方や分析の仕方についての講演を希望